

サシバの空

譜 → Bm 0 5 7
 Am C F G

* 秋の空高く旅立つ 暖かい南へ
 Am Bm F5 G7 Am Bm

谷間に渦を巻いて 生きてゆくために **
 Am Bm F5 G7 Am Bm

ゆるやかな風に乗り 羽がたくこたく
 Am Bm F5 C Am Bm F5 G7 Am Bm

昇ってゆく 遠くの空に
 F5 G Am C F5 G Am G

サシバ達 空を翔けゆく
 C5 Dm G7 C0

里山の恵をたくさん抱いて
 C5 Dm G7 C0

* 来る時も 帰る時も 誰にも気づかれず

ここにいた証として 残さぬ声残して **

小さな命 育むため 平和なこの地へ

降りてきた 風にもた乗って

サシバ達 空を翔けゆく

かけがえのない 家族を愛して

(** ~ ***) (くりかえし)

(* ~ **) (くりかえし)

Capo. 5 1-2LD

Capo. 0 1-2LD

G

一人になりたくて

G Am D7 G G Am D7 G

D Em A7 D D Em A7 D

G Am D7 G

D Em A7 D

ああ一人になりたくて

G Am D7 G A

D Em A7 D

夕暮れの街から海へ続く道を

G Am D7 G

D Em A7 D

何も持たず たた歩くだけで

G Am D7 G

D Em A7 D

気付いた時は最後の道を渡っていた

Em C D D7 B7

Bm G A A7 F#7

おれすつ冷たくなって

Em C D D7

Bm G A A7

服にかいた上着を脱いで

C D Em C D Em

G A Bm G A Bm

両手を伸ばしてソレに海へ

薄暗くなった砂浜降りて

波打ち際から少し離れたところ

西の空がまだ明るく

左の耳に感じる波のざわめき

おれすつ人がいなくなり

一人二人と帰ってゆく中で

寂しくなって 一人恋しくなる

いろいろある

Am G Am G Am G Am

ある^Cきっかけでできた^G恋愛感情^{Am Em}と
自然^Fの成り行き^Cの愛情関係^{Dm G7}と
あまり違^Cいはない^Gかもしれない^{G7}けれど
始^{Am}まりがわか^Gらな^{Dm}い方が^G終わ^{Dm}りもわか^Gらな^Gい

Am G Am G Am G
人を好きになるのもいろいろある

Am G Am Dm
くっついて^G離れて^{Am}繰り返す^{Dm}うち
Am G Am
そのうち^G別れて^{Am}しまう^{Am}パターンと
Am G Am Dm
慰めたり^G喧嘩^{Am}したり^{Am}繰り返す^{Dm}うち
Am G Am
そのうち^G離れて^{Am}なくなる^{Am}パターンと

G G7 C Am Dm
どの様^Gになる^{G7}のかは^C自分^{Am}だけが
F C E7
わかるはず^Cもない

特別な気持ちの恋愛感情と
ずっと一緒にいたい愛情関係と
あまり違^Cいはない^Gかもしれない^{G7}けれど
一方的^Cな^Gやりか^{Dm}りも^Gお互い^Gで育^{Dm}む^G方が^Gいい

人を好きになるのもいろいろある

いろんなこと求めたり与えたりするうち
見返りを期待するパターンと
多くは望ま^Cない^Gで^{Am}思い^{Am}やる^{Dm}だけで
見返りは求めないパターンと

どの様^Cになる^{G7}のかは^C自分^{Am}だけが
わかるはず^Cもない^{E7}

Capo 1-21v Am

短い秋

F LG Am FC G Am

Woo Ah

^{Am}ひと頃まで ^G汗ばむ日にか ^F ^C

^{Dm}この頃の朝 ^{Am}白く ^G冷えた風 ^{Am}に

^C枯れた葉が ^Gひとひら ^{Am}軽を舞う ^G

^F秋はいつか ^C足早に ^G過ぎてゆく ^{Am}

Woo Ah

ひと頃まで 気づくだった会話

この頃どにか またまたしい付き合い..

別れの気配 冷えてゆくこの吐息を

何にも告げず 季節は過ぎてゆく

Woo Ah

夕映えの彼方

Am F Dm E7

^Cふと遠くの山 ^F見渡す

^C夕日に染まる頃

^Cひとときの風が

頬を撫でてゆく

^{Am}振り返る ^{Dm}今年の冬と春は

^Fたくさん泊まりで ^C出かけた

夜の帳の向こうに

新たな光が

そにはもうすこし待ってる

今年の閉じる事

振り返る 今年の夏と秋は

たくさん思い出が作れた